

4

高等学校の参考事例

指導計画の作成（高等学校の例）

（第2学年）

自校の教育内容を「志教育」の視点で見直しましょう

	1 学期	2 学期	3 学期
国語総合	現代文 評論『自分・この不思議な存在』 ○自己の在り方について見つめ直し、自分とはどのような存在か、自分と他者との関係について考える。 【かかわる・もとめる】	古典 漢文『論語』 ○古代中国の思想に触れ、孔子・孟子の教えを理解し、現代の日本人の生活の中に生きる教えについて気づき、自分の考えをもつ。 【かかわる・はたす】	現代文 小説『夏の花』 ○被爆当時の状況と主人公の心情を的確に読み取り、人間の生きる姿を見つめ、人間の在り方について考えを深める。 【かかわる・はたす】
地理B	『自然環境』 ○世界の自然環境の特色を大観させる学習を通して、日本の自然環境から自然災害が起こりやすい地域性を理解させるとともに、災害時の自分の果たすべき役割について考える。 【はたす】	『市町村規模の地域』 ○日常の生活圏、行動圏について、地域の特徴を多面的・多角的に調査することを通して、地域の課題を意識し解決に向けて、自分の果たすべき役割について考える。 【かかわる・はたす】	『人口・食料問題の地域性』 ○人口・食料問題の解決には地域性を踏まえた国際協力が効果的であることを理解させ、グローバル社会に生きる一員として自分の果たすべき役割について考える。 【かかわる・はたす】
世界史B	『イスラーム世界の形成と発展』 ○イスラーム教の特質を理解し、その文化圏とのかかわりの中で、交流が図られた歴史を知ることにより、宗教間の対立等、現代の国際問題を把握し、解決に向けて果たすべき役割を自覚する。 【かかわる・はたす】	『欧米における近代社会の成長』 ○米独立革命の背景・内容・結果を理解することにより、自由・平等を根拠とした民主主義国家の形成を学び、民主主義や合衆国を形成した精神について考える。 【はたす・もとめる】	『現代の世界』 ○冷戦後、グローバル化した世界において、各国の相互依存が強まっていることを理解し、その中で地域紛争を含む地球規模での課題を考察し、今後の平和な国際社会の発展や次世代に残すべき持続可能な社会について考える。 【かかわる・はたす】
日本史B	『室町文化』 ○公家文化と武家文化の融合、中国文化の影響等の上に室町文化が成立し、文化の地方へ普及していったことを理解するとともに、伝統文化として現在に継承されてきたものの例を調べ、発表し合う。 【かかわる】	『第一次世界大戦』 ○第一次世界大戦後の国際的な協調体制の成立が日本の外交政策に対する影響の考察を通して、国際社会の中で自分が果たすべき役割を考える。 【かかわる・はたす・もとめる】	『現代の日本と世界』 ○地球規模での環境問題、食糧問題等の解決に向けて日本が果たすべき役割について考察するとともに、国際社会の一員として自分がこれらの課題に取り組む役割について考える。 【はたす・もとめる】
現代社会	『現代社会と青年の生き方』 ○青年期のもつ意義や自己形成の課題について考えるとともに、将来の職業と生活を視野に入れながら青年としての生き方について自覚を深める。 【もとめる・はたす】	『自立した消費者としての道』 ○消費者問題の学習を通して、消費者としての社会的責任について考え、市場経済の主権者として自立した消費者になることの自覚を深める。 【かかわる・はたす】	『人種・民族問題』 ○人種・民族問題の学習を通して、それぞれの固有の文化を尊重する寛容の態度を養うとともに、主体的に国際社会の課題について考えようとする自覚を深める。 【かかわる・はたす】
数学Ⅱ			
物理Ⅰ	『電気と生活』 ○生活の中の電気製品、通信機器、鉄道などの輸送手段の性質を知り、科学的な思考力や判断力を育成する。 【かかわる・はたす】		『エネルギーの変換と保存』 ○互いに他のエネルギーに変換してもエネルギーの総量は保存される。しかし熱現象は不可逆であり地球温暖化等を含め日常生活のエネルギーの利用の仕方について考える。 【かかわる・はたす】
化学Ⅰ	『物質と人間生活』 ○化学の成果が人間生活を豊かにしたことを、具体例を通して化学の成果を調べさせ、それらがいかにか人間生活を豊かにしたのか気付く。 【かかわる・はたす】	『酸化と還元』 ○代表的な物質の電気分解や、電池の仕組み、実用電池にも触れながら化学エネルギーについても理解する。 【かかわる・はたす】	
生物Ⅰ		『植物の生活と環境』 ○植物における水分の吸収、移動や光合成と環境との関係を理解する。 【かかわる・はたす】	

指導計画の作成（高等学校の例）

（第2学年）

自校の教育内容を「志教育」の視点で見直しましょう

	1 学期	2 学期	3 学期
地学Ⅰ		<p>『大気・海洋と宇宙の構成に関する探究活動』</p> <p>○身近な気象現象の観察、観測や気象衛星画像と大気の大循環などについての分析を通して地球環境を理解する。 【かかわる・はたす】</p>	<p>『大気の熱収支と大気の運動』</p> <p>○大気及び海洋の運動が太陽放射エネルギーを原動力として起きていることを地球規模で扱い、地球温暖化やオゾン層の破壊などの地球環境問題に触れる。 【はたす・もとめる】</p>
保健体育	<p>『領域：体づくり運動』</p> <p>○運動を通して仲間と進んで協力したり、仲間が安心して活動できるように緊張をほぐし、積極的に課題にチャレンジすることによって、自己と仲間の心や体に及ぼす影響を考える。 【かかわる】</p>	<p>『領域：水泳（十保健）』</p> <p>○安全への理解を一層深めるため、着衣泳を体験し、着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方を学ぶと同時に、科目保健で既習している心肺蘇生法を復習し、自他の生命の大切さを考える。 【かかわる・はたす】</p>	<p>『領域：球技』</p> <p>○作戦や状況に応じた技能及び仲間と連携した動きを高め、役割分担し責任をもち主体的に取組む。仲間の発言を尊重したり、体調や環境の変化に注意し自他の健康維持と安全保持に努める。 【かかわる・はたす】</p>
英語Ⅱ	<p>Lesson1:Big in China—Ai Fukuhara</p> <p>○福原愛の中国での活躍と人気、また彼女が中国で人々から受け入れられている様子について読む。 【かかわる・もとめる】</p>	<p>Lesson7:The Only Way to See Mt.Everest</p> <p>○「エベレストが最も美しく見えるポイント」への登山に挑戦した著者。困難を克服して1つのことをやり遂げるという実体験の達成感について読む。 【かかわる・はたす】</p>	<p>Lesson9:Staying Home in Mississippi</p> <p>○映画『カラーパープル』の原作者であるアリス・ウォーカーが黒人として差別された人生について学んでいく。 【もとめる】</p>
家庭総合	<p>『人の一生と家族・家庭』</p> <p>○人の一生を生涯発達の見点でとらえ、家族・家庭の意義等について理解し、家族の一員としての役割を果たし、家庭を築くことの重要性を認識するとともに、各自の生活設計を考える。 【かかわる・はたす・もとめる】</p>	<p>『子どもの発達と保育・福祉』『高齢者の生活と福祉』</p> <p>○子どもや高齢者との触れ合いや交流の機会をもち、子どもや高齢者について理解させるとともに、家族及び地域や社会の果たす役割について認識する。 【かかわる・はたす・もとめる】</p>	<p>『消費生活と資源・環境』</p> <p>○家庭の経済生活や、自立した消費者の権利と責任について具体的な事例を通して理解する。また、消費生活の課題について認識し、資源や環境に配慮して、責任をもって行動できるようにする。 【はたす・もとめる】</p>
情報Ⅱ	<p>『問題解決とコンピュータの活用』</p> <p>○日常ごく普通に決めているような事柄にも問題解決の構造があることを理解するとともに、仮想模擬店を文化祭に出店するまでの問題点の整理をKJ法を用いて行う。 【かかわる・はたす】</p>	<p>『問題のモデル化とコンピュータを活用した解決』</p> <p>○情報の蓄積・管理とデータベースの設計には、データの入力や処理の効率、データの整合性や一貫性の維持、記憶領域の利用効率など様々な観点があることを理解する。 【はたす】</p>	<p>『情報社会を支える情報技術』</p> <p>○情報化の「影」の面について、身の回りのテーマを扱い、どのように克服していったらよいか考える。 【はたす・もとめる】</p>
学習の総合的時間	<p>『職業人インタビュー』</p> <p>○様々な職種の人から、希望する職業に関する話を聞き、将来の進路について考える。 【かかわる・もとめる】</p>	<p>『インターンシップ・上級学校訪問』</p> <p>○現在の進路希望から、インターンシップの実施や上級学校の訪問により、進路先についての理解を深めるとともに将来の職業について考える。 【かかわる・もとめる】</p>	<p>『学習成果発表会』</p> <p>○1年間、学習してきた成果の発表を通して、発表方法や態度を養い、共に学び合う機会により相互理解を深め、学習意欲の向上を図る。 【かかわる・もとめる・はたす】</p>
特別活動	<p>『ホームルーム活動（学校祭企画立案）』</p> <p>○地域に学校を公開することを踏まえ、学校祭にホームルームとして参加する催しの企画、立案、役割分担を通して、互いに協力することの大切さを学ぶ。 【かかわる・もとめる】</p>	<p>『ホームルーム活動（学校祭実施）』</p> <p>○実施に際して、互いの役割を理解し、責任を果たすことの大切さを学ぶ。 ○地域に公開するにあたり、将来社会人として必要な振る舞いについて学ぶ。 【かかわる・もとめる・はたす】</p>	<p>『ホームルーム活動（振り返り）』</p> <p>○学校祭を振り返り、相互理解の深まりを認識させ、反省点を考える。 ○地域の協力に感謝し、今後も協力していただけるような工夫を考える。 【かかわる・もとめる・はたす】</p>
その他	<p>『朝の読書活動』</p> <p>○静かな雰囲気の中で、様々な分野の本を読むことにより、いろいろな考え方を知り、自らの考えを深める。 【はたす・もとめる】</p>	<p>『清掃活動』</p> <p>○限られた時間の中で、清掃ポイントを把握し、効率的にかつ協力して分担区域の清掃を行う。 【かかわる・もとめる】</p>	<p>『部活動』</p> <p>○3年生として、また、所属部の中での自分の役割を果たしながら、他の部員と協力して目標達成を目指す。 【かかわる・はたす】</p>

単元名

物質と人間生活

第2学年

理科 化学 I

〈単元のねらい〉

○化学の成果が人間生活を豊かにしたことを具体事例から学習し、科学技術の成果と今後の課題についての視点を養う。

志教育の視点

・科学技術への興味・関心を高めるとともに、人類の持続可能な発展という観点から、将来において果たすべき役割を自覚させる。

〈単元の流れ〉

- 1 化学とはどのような学問なのか理解する。
 - ・物質の構造や性質について、先人の科学者たちが研究を極め、原子や分子のレベルの学問であることを理解する。
- 2 化学の発展とその成果を理解する。
 - ・錬金術、不老不死の薬の合成から発展してきた化学史について理解する。
 - ・当時の環境を考えるとともに、現代の化学の成果と人間生活について具体例を取り上げることにより理解を深める。
- 3 化学の発展がもたらした負の部分についても知る。
 - ・公害と言われた化学物質による汚染やダイオキシンの害など、化学がもたらした負の部分も考えさせる。
 - ・環境に与える負荷について理解する。
- 4 これからの化学の役割について考える。
 - ・身の回りの物質や化学反応を正しく理解することの重要性を認識する。
 - ・これからの時代の豊かさや環境保全への貢献等、化学技術の使命を理解する。

ポイント

●人間の生活が化学と密接にかかわっていることやこれからもかかわっていくことを理解させることが大切です。

ポイント

●化学の発展の光と影の両面に気付かせることにより、果たすべき役割を考えさせることが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

・科学技術への興味・関心を高め、将来において果たすべき役割について自覚させるために、化学の発展がもたらした成果と負の部分を考える場を設定する。

もつめる

はたす

単元名 人口・食料問題の地域性
コートジボワールを事例として

第2学年
地理歴史科 地理B

〈本時のねらい〉

○コートジボワールを事例地域として、人口・食料問題を追究し、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることを考察する。

志教育の視点

- ・人口、食料問題の学習を通して、グローバル社会に生きる一員として、自己の果たすべき役割について考え、具体的な行動への意欲をもたせる。

〈学習の流れ〉

- 1 コートジボワールを事例に、発展途上国の人口・食料問題について考えることを確認する。
(参考とする該当国基礎データ)
 - ・位置、自然環境
 - ・公用語、略史(フランス植民地)
 - ・一人あたりのGDP、貿易統計など
- 2 コートジボワールの人口構成の特徴から、発展途上国の人口爆発の問題について理解する。
 - ・人口の推移について考える。
 - ・人口ピラミッドを作図し考える。
- 3 コートジボワールの農業の特徴から、モノカルチュア経済について理解する。
 - ・カカオのプランテーションと独立後の小規模農業経営について考える。
 - ・アグリビジネスによる支配について理解する。
- 4 先進国の食料援助の功罪を整理し、地域性を踏まえた国際協力の必要性を理解する。
 - ・食料事情が改善する一方、国内の食料生産の発展を妨げる場合もあることを理解する。
- 5 本時の学習内容やフェアトレードの資料を基にグループごとに国際協力や支援の在り方について考察し、まとめ、発表する。

ポイント

- 人口・食料問題など地球規模の課題は、地域により現れ方が異なり、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要となるという見方や考え方ができるように指導することが大切です。

ポイント

- グローバル社会に生きる一員として自己の果たすべき役割の観点から考えさせ、発表させることが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・社会参画の意識と具体的な行動への意欲をもたせるよう “Think Globally, Act Locally”の視点から国際協力や支援の在り方を考え、意見をまとめる活動を設定する。

も
つ
め
る

は
た
す

単元名 第三世界の多元化と地域紛争
多発する地域紛争と新たな国際協力の模索

第2学年
地理歴史科 世界史B

かわる

〈単元のねらい〉

- 世界各地で多発する地域紛争について、その係争地域・係争国・係争の原因と理由や国際平和に寄与する機関を理解し、問題点と対応策を考える。
- 学習したことを基にプレゼンテーションすることができるようにする。

志教育の視点

- ・ 自他の考えを比較させ、他者の価値観を理解させる。
- ・ 平和で持続可能な社会を建設するため、次世代まで見通した方策を考え、果たすべき役割を認識させる。

はたす

〈単元の流れ〉

- 1 地域紛争について調べる。(個別)
 - ・ 地域紛争が起きている係争地を調べる。
 - ・ その中から、自分が興味・関心をもった地域紛争を3つ選び、それぞれに課題があることを確認する。
- 2 地域紛争について理解を深める。(グループ)
 - ・ グループの中で、個人の持ち寄った課題を発表し合い、共通で研究するものを1つ決定する。
 - ・ 紛争の詳細についてグループで調べ、まとめる。
※紛争の歴史、背景、現状、国際機関の介入、解決に協力している国家など
 - ・ 紛争の問題点を、係争国当事者の観点と第三国者的な観点等に分け、担当ごとにその問題について考える。
 - ・ グループ学習の内容を、プレゼンテーションできるようまとめる。
- 3 地域紛争について発表し、聞き合う。(発表会)
 - ・ グループごとに発表し、他のグループの考えを聞き、様々な紛争について自分の考えをまとめる。
 - ・ 学習シートを活用し、学習全般を振り返る。

ポイント

- 世界の問題への興味・関心を高めるための教師の働きかけが大切です。

ポイント

- 現在の国際社会に果たす役割だけでなく二次的な問題等、次世代のことも考えさせることが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・ 平和な国際社会の持続などについて、自分ができる役割を認識させるため、地域紛争や紛争がもたらす二次的な問題についても考え、意見をまとめる活動の場を設定する。

単元名 第一次世界大戦・パリ講和会議
新渡戸稲造と国際連盟

第2学年
地理歴史科 日本史B

〈単元のねらい〉

○第一次世界大戦後の国際協調の進展の中で、日本がどのように対応し、国際社会における立場を変化させていったかについて、国際連盟設立と日本の立場を通して考察する。

志教育の視点

- ・国際社会で主体的に生きる日本人としての生き方を通して、自らの在り方、生き方を探究させる。

〈単元の流れ〉

- 1 国際連盟設立の趣旨と役割について知る。
 - ・設立までの経緯とその理念について理解する。
 - ・連盟の国際紛争解決の手段について調べる。
 - ・連盟の果たした役割や当時の国際社会における連盟の課題と限界についてまとめる。
- 2 国際連盟と日本の立場について知る。
 - ・連盟常任理事国4カ国の状況を理解する。
- 3 新渡戸稲造の生き方について学ぶ。
 - ・札幌農学校時代
 - ※クラークの教え“Be gentleman!”“Boys, be ambitious!”や内村鑑三との出会いなどについて調べる。
 - ・渡米後の生活
 - ※著書「武士道」について調べ、新渡戸が国際社会の中で、日本の精神文化について考えを深めたことを理解する。
 - ・国際連盟事務次長としての活躍
 - ※日本の立場を理解した上で、国際連盟事務次長として新渡戸稲造が就任したことの意義と業績について考える。
 - ・新渡戸稲造の生涯を通し、自己の生き方について考える。

ポイント

- 時代背景を理解させることが、新渡戸の生き方について考えさせる上で大切です。

ポイント

- 新渡戸稲造が、生涯にわたって国際社会の中で活躍した基本には、特に札幌農学校で培った「我れ、太平洋の架け橋とならん」との信念に基づくものであることを理解させ、「志」をもつことの重要性を考えさせる。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・自己を振り返り、社会の中でより価値の高い生き方について考えさせるため、平和な国際社会の構築に貢献した新渡戸稲造の生き方に焦点を当てた学びの手法を工夫する。

単元名

インターンシップ・上級学校訪問

第2学年

総合的な学習の時間

〈単元のねらい〉

○自分の進路希望に応じて、上級学校の訪問や希望業種でのインターンシップを通し、進路先についての理解を深めるとともに、自分の能力や適性を見つめ、将来の進路選択について考える。

志教育の視点

・上級学校訪問やインターンシップ体験を通して、将来の職業や生き方について考えさせる。

〈単元の流れ〉

1 訪問・体験活動のガイダンス

○訪問や体験活動の心構えや方法について理解する。

〈大学や専門学校などの進学を希望している生徒〉

- ・関心ある学部・学科・コース・専攻まで十分検討して、2校以上訪問し、比較・判断の材料として様々な情報や資料を収集する。

(訪問にあたっては、「オープンキャンパス」、「学校見学会」などの日程を確認して参加する。)

〈就職を希望している生徒〉

- ・希望の企業や職種に応じて受け入れ先と相談の上、実施日等の詳細について決定する。

2 報告会の開催

- ・上級学校訪問やインターンシップの実施内容と成果について生徒一人一人がまとめ、学級ごとにプレゼンテーションをする。
- ・学年全体会（「報告会」）では、学級の代表が発表し、進路選択について参考にする。

ポイント

- 将来の職業について具体的に考えさせ、質問項目を練り上げた上で、訪問させることが大切です。

ポイント

- 訪問・体験活動を通し、自己の適性について理解を深めさせることや訪問・体験先で適切なコミュニケーションができるよう指導することが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

・自己の適性を見つめさせるとともに将来の職業について考えさせるため、上級学校訪問やインターンシップ体験に取り組ませる。

単元名

生活設計

第2学年

家庭科 家庭総合

〈本時のねらい〉

- 高校生は青年期に入り、自立に向けて活動する時期であることを理解するとともに「生活設計」の立案を通して、自己の生き方や将来の家庭生活と職業生活の在り方について考える。

志教育の視点

- ・生活設計案の作成を通して、人としての在り方生き方の探求を促す。

〈学習の流れ〉

1 学習課題をつかむ。

- ・現在の自分を振り返り、「自立」についての考えをもつ。
(生活的、経済的、精神的、社会的など)
- ・これからの人生の生活設計において、それぞれのライフステージで課題があることを確認し、自分自身で取り組むことが必要な課題を認識する。

ポイント

- 自分を振り返らせ、現在の自分を客観的に見つめさせ、自己理解を促すことが大切です。

2 「生活設計」の内容と方法について考える。

- ・生活設計を立案する際、どのステージでも5つの段階があることを踏まえて立案する。
(5段階：準備、計画立案、実施、反省・評価、フィードバック)
- ・目標の設定を試みる。
(短期生活設計 20歳まで、大学卒業まで)
(中期生活設計 30歳まで)
(長期生活設計 子どもが成人するまで、自分の老後まで)

ポイント

- 単なるライフイベントの羅列にならないように、観点を示しながら指導することが大切です。

※考えるポイント

○ライフイベント〔子どもの誕生、入学、進学、就職、結婚など〕やファミリーサイクル〔新婚期、育児期、教育期、老年期など家族を単位とした周期変化〕に応じて目標の調整が必要な場合もあることを踏まえさせる。

ポイント

- 自己の生き方や将来の生活について具体的に考えさせることが大切です。

3 「生活設計」を立案する。

- ・家族、友人、健康、金銭、もの、空間、技術などが生活する上で重要な生活資源であることを理解し、どのように活用したらよいか考える。
- ・実際に生活設計案を作成する。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・将来への目標や展望をもち、生活課題を踏まえた上で、自分らしい生き方を考えさせるため、生活設計案を作成する活動に取り組みさせる。

単元名

学校祭への取組

第2学年

特別活動（ホームルーム活動）

か
か
わ
る

〈活動のねらい〉

○学校祭での、学級の催しについての企画、立案、役割分担等の話し合いを通して、互いの意見を尊重したり、役割を理解し協力するとともに、地域の人々と連携することの大切さを理解する。

志教育の視点

- ・学校祭への取組を通して、自分の果たすべき役割を認識し、組織の中で協力したり協調しようとする意欲を高める。
- ・地域の人々と適切なコミュニケーションを図ろうとする気持ちをはぐくむ。

は
た
す

〈活動の流れ〉

- 1 各学級において学校祭（地域公開）の意義を理解し、学校祭の全校統一テーマを話し合う。
- 2 生徒総会でテーマを決定し、学校祭の意義、基本方針を共有する。
- 3 生徒総会の決定事項を踏まえ、各学級において参加形態・内容を検討する。
 - ・催しの内容を安全最優先の視点から検討する。
 - ・地域の協力を得ながら全員が参加し、達成感を味わえる催しを考える。
 - ・生徒会予算から各学級に与えられた予算を生かす工夫をする。
- 4 全員が一致協力して、安全に配慮しながら学校祭を実施する。
 - ・相互の役割を認識しつつ、自分の役割に責任をもって成し遂げる。
 - ・地域の方々に対しては、十分配慮した行動・言動を心がけさせるとともに、地域の人たちとの触れ合いのよさを味わわせる。
 - ・生徒会関係組織と連携をとりながら協力して運営させる。
- 5 反省会を実施し、相互の連帯感の深まりを認識させるとともに、次年度へ向けた改善点を考える。

ポイント

- 学校祭の公開により、学校と地域のつながりを意識させることが大切です。

ポイント

- 地域の方々とのかわりや生徒会組織を通じた取組の中で、自分の役割を理解させ、集団の中で協力して取り組ませることが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・集団の中で果たすべき役割を理解させ、コミュニケーションを図ろうとする気持ちをはぐくむために、活動の機会や場の設定を行う。